| 群教セ | J01 - 01 |
| --- | --- |
| | 平16.220集 |

# 互いのよさに気づき、認め合う心を育む指導の工夫

## ── 音楽の授業における歌づくりを通して ──

特別研修員　　松井　園美　　（邑楽町立長柄小学校）

≪研究の概要≫

本研究は、音楽の授業における歌づくりを通して、友だちのよさや工夫を知り、認め合う心を育てるための指導のあり方を明らかにしようとしたものである。具体的には、ワークシートを活用した一人一人を認め励ます個に応じた指導により、意欲的に歌える心情づくりを行う。その上で、相互交流を取り入れた学習活動を実践し、達成感や満足感を得た後に、それまでの取り組みを振り返る活動を行った。

【キーワード：人権教育　小学校　音楽　個に応じた指導　相互交流】

### 主題設定の理由

子どもたちの家庭での生活をみると、多くの場合、平日は塾や各種の習い事に通い、休日は家でテレビゲームやカード等に興じている。一方大人においても、近所づきあいが少なく、他人とのコミュニケーションの希薄化が進んできているように思われる。このことは、社会問題となっている不登校や引きこもり、さらには様々な非行や犯罪等の要因とも考えられる。

生来人は、集団や社会の中で、多くの人とかかわり合いながら育ち、成長している。今後、子どもたちがどのような環境の中に身をおこうとも、そこでかかわる人と良好な人間関係を築いていってもらいたいものである。そのためには、自分のやっていることに対して肯定感をもち、人と心をかよわせる経験をさせることが大切であると考える。

本学級（小学校４年生　男子15名　女子13名）は、明るく素直で活動的な児童が多い。しかし日ごろの生活の中で、自分の考えは主張するが、相手の話をよく聞こうとしなかったり、相手を傷つける言動に及んでしまったり、自分の考えを押しつけてしまったりする場面がみうけられる。こうしたことの原因は、「自分さえよければいい」というような、他者に対する関心の低さや人を思いやる気持ちの欠如が考えられる。そして、その背景には、友だちとともに助け合って何かを行ったり、つくりあげたりする体験や経験不足が考えられる。

そこで歌づくりを中心とした活動を取りあげることにした。児童の意欲づくりを行った上で、一つの曲をクラス全員で練習し、つくりあげていくことは、友だちとのかかわりをもち、協力することを体験するのに適した活動であると考える。そしてその活動を振り返ることにより、互いのよさに気づき、認め合う心を育てることを目指したいと考え、本主題を設定した。

### 研究のねらい

「ピピピつうしん」（意欲づけを目指すためのワークシート）を活用した個に応じた指導により、意欲的に歌える心情づくりを行う。それを基に、一つの曲をクラス全員でつくりあげていく過程において、ともに歌う友だちとの交流とその振り返りを通して、互いのよさに気づき、認め合う心が育つであろうことを実践を通して明らかにする。

### 研究の見通し

1　「ピピピつうしん」を通して、一人一人の児童を認め励ます指導を繰り返すことにより、歌うことに対して意欲をもつことができるであろう。そして意欲をもって歌うことが、歌うことへの自信につながるであろう。

2　音楽の授業で一つの曲をクラス全員でつくりあげていく過程において、相互交流を取り入れた活動を行う。その中で、友だちのよさや工夫を知ることができるであろう。

3　それまでの取り組みを「歌声メモ」を活用して振り返ることにより、今までの活動が友だちとの協力によって成り立っていることを感じることで､互いに認め合う心が育つであろう。

### 研究の内容

**1　基本的な考え方**

(1)　「互いのよさに気づき、認め合おうとする児童」について

自分や友だちに関心をもち、そのよさに気づいたり積極的に知ろうとする児童である。そして、協力して互いに高め合おうとし、その高め合いが友だちとの協力によって成り立っていると感じることができる児童である。そのためには、他人との心の交流が必要であると考える。

(2)　「歌づくり」について

歌い合わせる活動のことである。それは、ともに歌う友だちを意識し、そろえて歌うことである。また、お互いのよさを生かしてよりよい表現にしていくことである。そしてその過程において活動の成果を感じ取ることが可能であり、達成感や満足感を得ることができると考える。

(3)　「ピピピつうしん」について

次の２種類の「ピピピつうしん」を通して、児童に歌に対する意欲と自信を持たせることを目指す。

○　『ピピピつうしん たまご』

児童が、歌うことに対する悩みなどを記入するワークシートである。教師は、それを通して、一人一人の児童の心情を把握し、個々に励ましたりアドバイスし、授業のなかで生かしていく。

○　『ピピピつうしん　ひよこ』

個々のアドバイスをもとに、児童が自分なりの課題をもち、その手立てを考えながら、実践したことについての振り返りを記入するワークシートである。教師は、それを認めたり励ましたりして、児童に返していく。

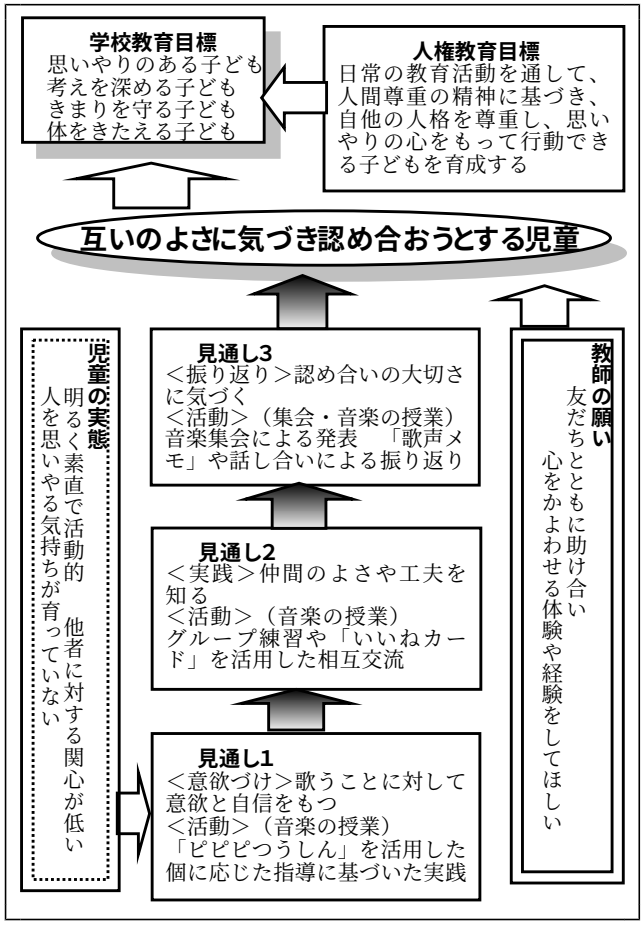



**図１　研究の全体構想図**

(4)　「相互交流を取り入れた活動」について

歌づくりにあたって、数人のグループや全体で、一緒に歌い合わせたり、聴き合いアドバイスし合う活動のことである。また友だちのよさや工夫をみつけ、「いいねカード」に記入し、それを掲示したり、紹介したりしながら、お互い高め合うことを目指す活動のことである。

(5)　「歌声メモ」について

振り返りのワークシートで、発表に至るまでの過程において、自分の努力だけではなく、友だちの協力や助けがあって、自分が向上してきたことを感じることができるようにする。

## 2　実践の概要及び結果と考察

学級全体および抽出児童のアンケートや「ピピピつうしん」「いいねカード」「歌声メモ」の記述内容、および活動時の観察や活動後の児童の感想の分析等を通じてその変容をとらえた。

A 子は、素直で前向きな見方や考え方のできる児童であるが、歌う活動についての事前のアンケートでは、消極的な取り組みを選択した。

(1)「ピピピつうしん」を通した個に応じた指導により、歌うことに対して意欲をもつことができ、さらに意欲をもって歌うことが、歌うことへの自信につながったか。（見通し１）

ア　実践の概要

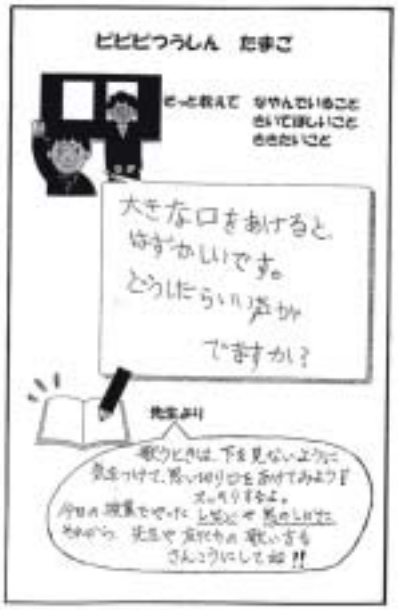
「ふだんの音楽の授業や集会のときに、いつも思い切り歌っていますか？」という事前のアンケートでは、いつも積極的な取り組みをしている児童は約半数であった。そこで、音楽の授業において「ピピピつうしん」を書く時間を設けた。まずは「ピピピつうしん　たまご」において、児童が歌う上での悩みや聞いてほしいこと、聞きたいことを書いた。それに対して教師は返事を書き、それらの悩みの解消のヒントとなる授業を組み入れた。さらに、「ピピピつうしん　ひよこ」では、自ら課題をもち、その取り組みについての振り返りを記述した。それに対して教師は返事を返し、次への取り組みにつながるようにした。

イ　結果と考察

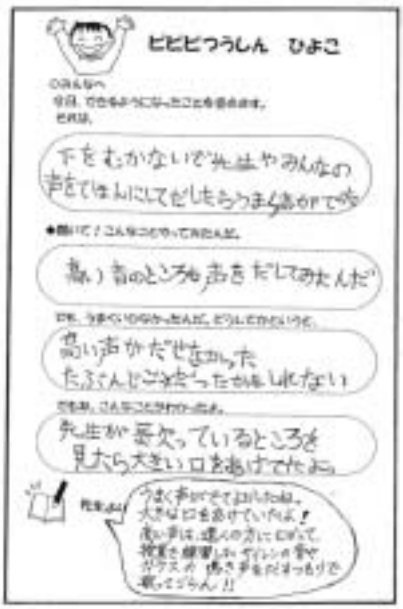
「ピピピつうしん　たまご」に挙げられた内容としては、歌い方に関する悩みが全体の約80％にあたり、思い切り歌う表現の仕方やコツがよくわからない実態がうかがえた。そこで個々のアドバイスの他に、発声のうえでポイントとなる姿勢と呼吸に重点をおき、授業のなかに組み入れた。また、「みんなの前で歌うのが恥ずかしい」「自信がない」といった心情面での悩みを記述した児童には励ましの返事を返した。そして次の音楽の授業では、児童が記述した悩み等の解決を目標として実践したことを「ピピピつうしん　ひよこ」に記入していった。

資料１、２は、A 子の「ピピピつうしん」である。「下を見ない」「先生や友だちの歌い方を参考にする」といった教師のアドバイスをうけての実践と観察が記述

**資料１**




**資料２**



されてあり、その取り組みの成果を「うまく声がでた」と感じている。また、「高い音のところも声をだしてみる」といった新たな課題をもって取り組んでいることがわかる。A 子の授業における歌う表情にも、以前よりも積極的な面が多くみられるようになってきた。他の児童の「ピピピつうしん」の記述の中にも、「高い音と低い音をだすときには見る高さを変えた方がいい」などの発見や「歌うことに集中することが大事」といった心情面の内容もみられるようになった。

「ピピピつうしん　ひよこ」を３回実施した後に、事前と同じ内容のアンケートを行った。その結果、積極的な取り組みを選択した児童は28人中26人となった。その理由としては資料３のように、20名の児童が自分が向上した喜びや自分を認めてもらった喜びを記述していた。A 子においては、「サイレンのまねをして高い声をだしたら、できるようになったからうれしい」と記述し、積極的な取り組みの選択に変わった。事前アンケートで、積極的に歌っていると選択をした児童も、「もっと歌が好きになった」「自信がついた」といった記述がみられた。クラス全体としても、積極的に歌う意欲が感じられるようになった。

**資料３**

**＜一生懸命歌うようになった理由＞**

**○自分の向上に対する喜び**
- 歌い方がわかった（７）
- 声の出し方がわかった（２）
- 歌がうまくなった（２）
- 自信がついた（１）

**○自分を認めてもらった喜び**
- 先生やみんなに励まして（ほめて）もらった（８）
- 自分のやり方をみんながまねしてくれたから（２）

**○その他**
- みんながんばっているからなど（５）

複数回答可　　（人）

以上のように、「ピピピつうしん」を通して、個々のアドバイスに基づいた自分なりの課題をもち、その手立てを考えて実践し、それを振り返ることは、その活動における意欲を高めることにつながったと考える。さらにその活動が認められたり励まされたりすることにより、さらに意欲が高まり、自信につながったと考える。

(2)　音楽の授業において一つの曲をクラス全員でつくりあげていく過程において、相互交流を取り入れた活動を行う。その中で友だちのよさや工夫を知ることができたか。（見通し２）

ア　実践の概要

教材曲「夕日の向こうに」を歌い合わせる過程において、グループ練習を取り入れた。グループのメンバーを入れ換え、より多くの友だちと練習できるようにし、３時間にわたって実施した。そして３回めのグループ練習の後に、各グループの発表を行った。これらの活動のなかで、友だちのよさや工夫を見つけることができた児童は、そのよさや工夫を「いいねカード」に記入し、「いいねの森」と名づけた模造紙に貼って、音楽室に掲示した。

イ　結果と考察

３回のグループの練習のめあてや活動の様子、主な「いいねカード」の記入内容および「いいねカード」への記入人数は次の表の通りである。

| 時間 | 活動のめあて | 活動の様子 | 主な「いいねカード」の記入内容 | 記入人数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | そろって、歌い合わせる。 | ・児童だけで進める授業形態に戸惑いながらも、楽しそうに録音された伴奏にあわせて、全員で歌い合わせていた。 | 「大きな声で歌えた」<br>「なかよく練習できたよ」 | ５名 |
| 2 | 互いにききあいアドバイスする。 | ・さらに少人数に分かれてききあい、姿勢や口のあけ方、声の大きさなどについて感想を言いながら歌い合わせていた。 | 「○君のしんけんな顔がよかった」<br>「△さんは口もよくあけていたし、声もよくでていた」 | 14名 |
| 3 | 歌い方を工夫する。 | ・曲の情景にあった歌い方を、ヒントカードを参考にして話し合い、それが表現できるように、何回も練習していた。 | 「■班は、息がよくあっていた」<br>「◇さんは、消えるようなやさしい歌い方ができてすごい」 | 23名 |

１回めのグループ練習では、友だちとのかかわりが漠然としたものであったのが、回を重ねるに従い、より多くの児童が個々の友だちのよさにも目が向けられるようになり、「いいねカード」の記入人数も増えた。そのよさにおいても表面的なよさから歌い方や表現の仕方といった細かい部分まで感じ取れるようになっていった。３回のグループ練習を終えて感想を書いてもらったところ、「みんなの考えがわかってよかった」「〇〇君の歌い方が参考になった」といったグループの友だちとのかかわりについてふれたものが半数以上あった。また「私が言ったことをみんながわかってくれた」「ぼくのことを書いたカードが『いいねの森』にはってあってうれしかった」といったように、友だちからよさを認められた喜びを記述したものもあった。授業の最後に全体で歌い合わせる児童の歌声からも、真剣な取り組みと歌う喜びが感じられ、音楽的な向上もみられた。

**写真　「いいねの森」**

A 子においても、「〇〇君は、せすじがのびていて声もよくでていた」（２回め）「だんだんみんなの声がそろっていくのがわかった」（３回め）と「いいねカード」に記述し、グループ練習後の感想には、「友だちと悪いところなどを注意しあいながら歌うのが楽しかった。また同じ歌い方がしたいです。」とあり、友だちと交流しながら歌った成果と喜びが感じられる。

このように歌をつくりあげていく過程において、相互交流を取り入れた活動を行うことは、友だちのよさや工夫を知るのに有効であったといえる。

(3)　それまでの取り組みを振り返ることにより、今までの活動の成果が友だちとの協力によって成り立っていることを感じることができたか。（見通し３）

ア　実践の概要

クラスでつくりあげてきた歌を、音楽集会において発表した。その後の音楽の授業で、音楽集会の歌声をビデオ鑑賞し、発表を終えた感想を書いた。そして発表に至るまでの活動を思い出したのち、「歌声メモ」を通して今までの活動によって学んだことを考えた。さらに今後の生活のなかでそれをどのように生かしていったらよいか、意見を出し合った。

イ　結果と考察

音楽集会では、一人一人が真剣な態度で歌いあげることができ、聴いていた他学年の児童や先生から大きな拍手をもらうことができた。資料４は、音楽集会を終えての児童の感想をまとめたものである。これらの感想から、児童は音楽集会を終えて得られた達成感や満足感を、練習の成果による個人としてのものと、クラス全員でつくりあげたことによる集団としてのものの両面から感じていることがわかる。その他の、「恥ずかしかった」等の記述をした児童についても、ほとんどの児童が真剣に取り組んだ上での感想であり、さらに高い目標をもち、「また音楽集会で発表したい」と述べた児童もいた。

**資料４**

**＜音楽集会を終えての主な感想＞**

**〇個人としての達成感・満足感**
- 思い切り（元気に・のびのびなど）歌えた　(10)
- きれいな（高い）声がだせた　（６）

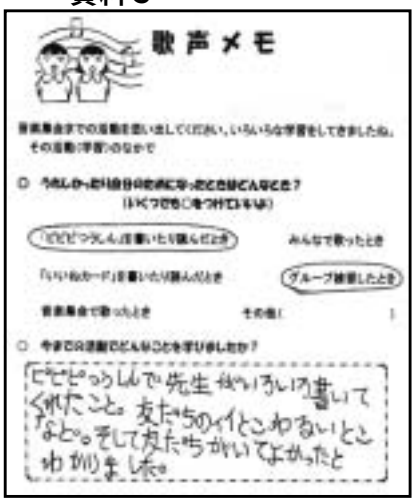
**〇集団としての達成感・満足感**
- みんなでまとまった（７）
- みんなで歌って気持ちよかった（３）

**〇その他**
- 楽しかった（うれしかった）（５）
- 恥ずかしかった（緊張した）（７）
- うまく歌えなかった　（３）　複数回答可（人）

さらに「歌声メモ」を活用して、それまでの活動の振り返りを行ったところ、「うれしかったり自分のためになったときはどんなとき？」という問いに「グループ練習」を選択した児童が20名と一番多く、「みんなで歌ったとき」（12名）「ピピピつうしん」（7名）「いいねカード」（５名）「音楽集会」（5名）その他と続いている。「今までの活動でどんなことを学びました

か？」という問いに、「チームワーク」「助け合い」「友情」といった言葉の記述が複数あった。これらの記述から、歌づくりが、友だちと助け合ったり励まし合ったりしながら協力して行われてきたと感じていることがわかる。また児童たちが、協力してつくりあげたことに、達成感や満足感を感じることにより、「友情」といった心情面でのかかわりの深まりもみられたと考えられる。A 子の「歌声メモ」（資料５)からも、「グループ練習」や「ピピピつうしん」による友だちや教師のかかわりが、自分の向上の助けになり、それをありがたいと感じていることがわかる。なかには、「みんなでいっしょに歌うことが、ぼくのためになっていると思った」と記述した男子児童がいた。この児童は、友だちと一緒に歌うことで、自分の歌う意欲と表現を向上させていることが実感できたのだと考える。

**資料５**




そして今後の生活にどのように生かしていったらよいか、意見を出し合ったところ、「クラスのなかで、けんかがなくなるようにしたい」「これからはみんなのことを考えて意見を出したい」「休み時間、みんなで仲良く遊びたい」などの意見が出た。実際児童の様子をみると、授業のなかで互いに教え合ったり、友だちの演奏に拍手をしたりする姿が以前より多くみられるようになってきた。また、学校行事や係活動等における場面でも、助け合ったり認め励ましたりする姿が随所にみられるようになってきた。

以上のことから、「歌声メモ」を活用して振り返ることにより、今までの活動が友だちとの協力によって成り立っていることを感じ、認め合う心を養うのに有効であったと考える。

## 研究のまとめと今後の課題

### １　研究のまとめ

○　「ピピピつうしん」を通して、児童一人一人を理解することに努め、個に応じた指導をすることにより、児童が自ら課題をもち、その課題解決にむけた活動に対する意欲や自信につながった。

○　一つのものをクラス全員でつくりあげていくなかで、相互交流を取り入れた活動を行うことにより、多くの友だちのよさや工夫に気づくことができ、さらにその仕上がりとともに達成感や満足感を味わうことができた。

○　「歌声メモ」を活用した振り返りや話し合いにより、今までの活動が友だちとの協力により成り立っていることに気づき、友だちのありがたさを実感するとともに、今後の生活に生かしていこうという意識が高まった。

### ２　今後の課題

子どもたちが意欲や自信をもって生活していけるように、児童一人一人の思いや願いをよりいっそう大切にしながら、自ら目標や課題を持たせるような投げかけやアドバイス等を続けていきたい。また、適切な学習や活動形態、有効なカードやワークシートの活用等、必要な手立ての工夫・改善に努めていきたい。

**＜参考文献＞**

・ 齊藤 孝 著　『教え力』　宝島社（2004)